

恐竜博物館 展示を再開

7月24日、熊本地震の影響により長期休館となっていた恐竜博物館の再開を記念して、オープニングセレモニーが行われました。セレモニーでは、藤木町長が来館者に向けて「待望の再開です」と挨拶。池上学芸員からは復興缶バッジプロジェクトの概要が説明されました。本プロジェクトで集まった参加費は、町恐

竜博物館振興基金への寄付金として積み立て、地域の復興に寄与する博物館の事業に使用されます。参加者は購入した缶バッジにメッセージや絵などを描き、博物館に用意された木の絵に飾りました。展示コーナーでは、恐竜の骨格標本を見て、子どもたちは「すごい！大きいー！」と楽しそうに見てまわりました。



1_缶バッジを飾る子どもたち 2・3・4_展示物と来館者

仮設団地にたねダンゴを寄贈

7月26日、ふれあい広場仮設団地で、ホームワイド御船店（佐藤正和店長）から入居者に、コスモスのたねダンゴ植え込みプランターが寄贈されました。「お花で熊本を元気に♪」をキャッチフレーズに御船町を花でいっぱいにし、復興の活力としてもらおうという取組。入居者を代表して本田洋一さん（辺田見）に寄贈された花は、手分けして各世帯に配られました。佐藤店長は「今後も地域との繋がりを大切にしていきたい」と話しました。



入居者に花を配る本田洋一さん（左）とホームワイド店長たち

SP
Topics



7月24日、福岡県宮若市と同県自治労直方市職員労働組合が高木小学校の児童を招待してバーベキューを行いました。



7月26日、高木保育園にまもレンジャーが遊びに来ました。

できることから一步一步

7月1日、株式会社黒潮市場から木倉小学校（河地浩太郎校長・119人）に、レジ袋預かり金が寄付されました。黒潮市場は地球温暖化防止に向けてマイバッグ持参運動を推進しており、12年前からレジ袋を1枚1円で販売しています。レジ袋代金の一部は年に一度、環境問題やエコ学習に活用してもらうために、町内の小学校に寄付されています。河地校長は「大切に使用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。



御船店の坂井店長（左）から寄付を受け取る河地校長（右）



1_岡村製作所 2_さくらネット
3_ワールド・ビジョン・ジャパン

児童の環境改善のために

熊本地震で校舎が被災し、通常と異なる環境で勉強する児童たちのために、各種団体から多くのものが寄贈されています。7月1日、岡村製作所から滝尾小学校に対し、イスや収納什器、パーテーションなど135点、さくらネットから冷風扇やポータブルスピーカーなど39点の備品が寄贈されました。7月20日にはワールド・ビジョン・ジャパンから町内各小学校へワールタオル922本が寄贈されました。

学校と家庭の交通安全リーダー証

7月20日、御船小学校（大脇為久校長・340人）で「学校と家庭の交通安全リーダー証」の交付式が行われました。県交通安全推進連盟が発行するリーダー証は、小学生の事故防止や、子どもたちの安全意識を高めるために、県内から選ばれた代表校の6年生を対象に交付されます。式では全校児童や、サプライズで登場したくまモンが見守るなか、代表児童6人による誓いの言葉が述べられ、代表の本田楓香さんにリーダー証が手渡されました。



交通安全リーダー証を授与された6年生の本田楓香さん

みふね恐竜観光ガイド養成講座認定式

7月23日、町恐竜博物館で地震により延期していた「第4期みふね恐竜観光ガイド養成講座認定式」が行われました。博物館オープン前日に行われた式では、恐竜の郷みふねプロジェクトの竹田津純会長が「恐竜ガイドの仲間と一緒に御船町の魅力をアピールしましょう」と激励あいさつ。恐竜に関する知識や化石発掘の技能を習得し、認定試験に合格した新たな恐竜観光ガイドに対し、本田恵典博物館長から認定証が授与されました。



認定証を交付された恐竜観光ガイドの新メンバー